

自己点検・評価報告書

【対象期間】 自：令和5年4月 1日

至：令和6年3月31日

令和6(2024)年4月

学校法人創心会 西日本看護専門学校

自己点検・評価報告書

本校では、平成17年度から教育水準の向上と専修学校としての目的・社会的使命を果たすために自己点検・評価を開始した。平成30年度には、自己点検・評価内容を検討し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿った点検・評価を行い、その公表を開始した。

令和5年度は、さらなる教育の充実と改善をすすめるために、

- ① 一般社団法人全国専門学校教育研究会によって開発された「自己点検・評価モデル 共通的评价基準モデル2022」を用いた自己点検・評価を行った。この評価基準は4段階での評価である。
- ② これまで自己点検・自己評価委員会にて行っていた点検及び評価を全教職員が行い、その結果を自己点検・自己評価委員会にて検討することとした。

これらを通して、全教職員で専門学校としての質保証と向上に努めていきたいと考えている。なお、本校は職業実践専門課程の認定を受けていないが、職業実践専門課程認定校に該当する項目も含めて自己点検・評価に取り組んだ。そのため、本校の実態にそぐわない評価項目があるが、今後の課題を検討する上で有用と考え、取り組んだものである。

評価結果

S : 適切 A : やや適切 B : やや不適切 C : 不適切

I. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

本校は専門職業人として広く地域に貢献できる看護師を育成する。

看護は、「あらゆる健康状態にある人々が、その人らしく生活できるよう援助すること」である。そのためには、生命を尊重する心、豊かな人間性、専門的知識や技術、医療従事者としての高い倫理観が求められる。さらに、現代社会においては、多職種と連携を図り多様化する看護実践の場に対応できる能力を持ち、自律した専門職業人として地域社会への貢献と看護の発展に寄与する看護師が求められている。

本校は、人間を深く理解し、ひとりひとりの生命を尊重することができる人間愛に富んだ看護の心と医療従事者としての倫理観の育成を基本姿勢とする。さらに、主体的で自律した看護の実践者として知識と技術を修得し、豊かな人間性をもった地域に貢献できる人材を育成することを教育理念とする。教育にあっては、さまざまな看護の経験や豊かな学習環境の中で、学生ひとりひとりの持つ能力を最大限に引き出し、ひとりひとりを大切に看護師として育成していきたいと考える。

これらをもって「ひとりひとりを大切に心のこもった看護を実践する」看護師の育成を行う。

〈教育目的〉

看護の実践者としての必要な知識と技術を教授し、学習活動を通じて看護の心と倫理観を育てるとともに社会人として調和のとれた人間教育を行い、地域に貢献できる看護師を育成する。

〈教育目標(人材育成像)〉

1. 人間を身体的、精神的、社会的、霊的に統合された存在として、また、生活者として理解できる。
2. 人間の生命と人間としての尊厳を尊重できる。
3. 豊かな感性をもち、人間関係を築き、発展させることができる。
4. 看護の対象を理解し、健康のあらゆる状態に応じて、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。
5. 保健・医療・福祉制度と多職種の役割を理解し、多職種との協働を通じて看護師の役割を理解し、看護を実践できる。
6. 看護師としての倫理観をもち、責任ある行動をとることができる。
7. 看護を探究し、自ら学び続ける力を身につけることができる。
8. 専門職業人として社会性・自律性を身につけることができる。

【入学生受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

本校は、以下の要件を満たす人を受け入れます。

1. 看護師になりたい強い意志をもっている人
2. 規範を守り、誠実な言動・行動がとれる人
3. 他者への関心を持ちコミュニケーションが図れる人
4. 健康や生活に関心を持ち生活態度が自律している人
5. 何事にも努力し、諦めない心を持っている人

【カリキュラム・ポリシー】

本校では、教育理念及び教育目標(育成人材像)に基づいた看護専門職者の育成を目指し、さらにデュプロマ・ポリシーを達成するための教育課程を編成しています。

1. 3年間で104単位・3,055時間を修得する教育課程を編成しており、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」から構成している。それぞれの科目は、ねらいと教育内容を明らかにし、教育内容をもとに他の分野・科目との関連性を考慮しながら教育課程を編成している。

2. 3年間の学修を通して基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積めるように教育課程を編成している。
3. 各科目はグループによる演習を取り入れ、また臨地実習を通して、他者と関わる力やコミュニケーション能力、協調性、他者を尊重する姿勢、倫理的態度、リーダーシップを養う。
4. 各看護学では、事例やシミュレーションを活用した授業を通して、看護の現象を多角的に捉え、論理的思考をもとに分析、統合する力を育成する。これらの学習をもとに臨地実習で遭遇する看護場面における臨床判断能力、看護実践能力を育成する。
5. 専門基礎分野・専門分野においては、保健・医療・福祉に関わる様々な専門職とチームとして協働することについて理解する。さらに、臨地実習においては医療チーム、また保健医療福祉チームの一員として看護活動に参加し看護職の役割を理解し、看護が実践できる力を育成する。
6. 様々な学習活動での経験をもとに省察を行い、課題を見出し、主体的な学習が行えるよう支援する。また、臨地実習での看護実践から看護を省察・探求する姿勢を養い、自らの看護観を表現できるようにする。
7. 看護師として、また社会人として身につけてほしい基礎的能力(社会人基礎力)を段階ごとに示し、講義や演習、実習、教課外教育活動などの多様な学習形態を通して社会人基礎力を身につけるカリキュラムとする。
8. 演習や実習等では少人数のグループによる学習を取り入れ、学生ひとりひとりを大切に個別性に応じた指導を行うカリキュラムを編成する。

【デュプロマ・ポリシー】

本校では、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、豊かな人間性と倫理観をもち、看護の実践者として知識と技術を身につけ、学び続ける姿勢をもった学生に卒業を認定し、専門士(医療専門課程)の称号を授与します。

II. 令和5年度の重点目標とその評価

重点目標	評価
1)新カリキュラムの運営と評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の新しい施設での臨地実習については、実習目的・目標・実習内容等について事前打ち合わせを行い、終了することができた。地域在・宅看護論実習1は、初めての实習であったが実習目標は達成できており、学生にとって学びの多い実習であった。老年看護学実習2は初めての实習病院での実習となったが、実習前後に指導者会議をもち、評価まで行い、次年度の課題も明確になっている。 ・2年次の領域横断科目については、科目担当者と領域担当で打ち合わせを行い終了した。また、全教員で今年度の評価を行い次年度の打ち合わせも終了しており、改善に向けて取り組んでいく。 ・新カリキュラムでの令和6年度の新たな実習については、実習内容や方法について打ち合わせを行い、学生の実習受け入れに関する準備を進めていただいている。実習開始前には詳細について打ち合わせが必要である。
2)令和6年度入学生に関する学生募集と入学試験の実施と評価を行い、質の良い入学生を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、入学試験の志願者は毎年減少していたが、令和6年度入学試験の志願者総数は前年度比119%となり、わずかだが増加した。しかし、入学者の確保は依然として困難な状況である。 ・推薦型選抜の志願者は前年度と変わらなかった。 ・一般選抜は令和6年度入試から3回実施したこと、県外を含め広く広報活動を行ったことが、志願者の増加につながったと考える。 ・18歳人口が減少する中、社会人経験者や県外からの看護を志す受験生にも広く本校を知っていただき進学先として選択されるよう広報活動を進めていくことが課題である。
3)新入生への早期からの学習指導、生活指導を実施し、退学者と原級留の学生を低減する	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者の減少に伴い、学力や生活背景、生活態度等多様な学生が入学している。その学生に対して学習指導や生活指導など多岐にわたる指導を行っている。 ・退学者は、前年度比40%となった。 ・原級留となった学生が複数名発生した。今後も学習の支援、個別面接などを実施し、退学者や原級留となる学生の低減に努めていく。
4)新人教員の指導の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、新人教員を4名採用した。教員経験のある2名の教員と教員歴のない2名である。また令和4年度入職の教員1名は、令和5年度福岡県専任教員養成講習会の受講が終了した。 ・4名の教員は各領域の担当者の指導を受け、これまでのキャリアを活かした教育・指導が行えている。 ・専任教員養成講習会未受講の教員については、令和6年度以降の受講を計画している。
5)卒業生に関する調査を実施し、教育評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者評価の意見をもとに令和5年度は卒業生の就職先の看護管理者に本校の卒業生の社会人基礎力と教育目標をもとにした評価を依頼した。その結果、傾聴力や規律性は身につけているものの考え抜く力や臨床判断は弱いことが明らかになった。これらの課題をもとに、今後の教育につなげていくことが必要である。

<p>6)社会貢献・地域貢献活動への取り組みを開始する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ学校祭の一般開放を検討したが、令和5年度までは学内行事として開催した。 ・ボランティア活動については、まちづくり協議会と協力し地域のイベントで活動することができた。しかし、医療福祉分野におけるボランティアについては要請がなく活動の機会がなかった。 ・地域からの学校に対するニーズの把握に努めたが、要請はなく、今後の取り組みについて検討が必要と考える。
<p>7)学生支援・学習環境の点検整備を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が利用しやすいよう図書のリ分類と整備を行うことができた。 ・医療従事者に必要とされるワクチン接種等については、実習施設、学校医と相談の上、ガイドラインに沿った見直しを行った。

Ⅲ. 基準項目 自己点検・評価

基準1. 教育理念、目的、目標(育成人材像)

中項目1-1

教育理念・教育目的・育成人材像が明文化され、教職員、学生、保護者等、関係業界に周知を図り、社会に公表しているか

■自己評価:S

【総括】

教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)については、ホームページに公開し、また学生便覧・シラバスに明記し周知を図っている。教職員には、入職時オリエンテーションを通して共通理解ができるように努めている。新入生及び保護者等には入学時オリエンテーション、保護者等懇談会で説明を行い、在校生には新学年のオリエンテーションにて説明を行い、再認識できるようにしている。入学希望者に対しては、学校見学会での説明を行い、学校案内パンフレットにも明記し、周知を図っている。

【課題】

学校の教育理念・教育目的・目標について、本校教職員だけでなく、非常勤講師・実習指導者にも周知され、教育に反映するために今後も引き続き周知していくことが課題である。

【今後の取り組み】

非常勤講師とは講義に関する打ち合わせ、実習指導者とは実習指導者会議等を通して説明を行い、意識していただける環境をつくり、周知を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0
1-1-2	教育理念・目的・育成人材像が教職員、学生、保護者等、関係業界に周知されているか	3.9
1-1-3	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	3.9

中項目1-2

社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか

■自己評価:S

【総括】

令和4年度に第5次カリキュラム改正(厚生労働省による第5次となる「保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部を改正する省令に基づいた改正」が行われた。その際に、社会のニーズ等を踏まえ検討した教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)を定めてしている。

【課題】

少子高齢化やデジタル化の推進等の社会や医療業界の変化に伴い、求められる人材像も変化するものと思われる。また、少子化による入学生の減少など学校が置かれている状況も変化している。これらをふまえ、

どのような人材育成、学校の将来構想を描いていくかが課題となる。

【今後の取り組み】

職業実践専門課程の認定に向け、教育課程編成委員会を設置する予定である。この委員会を通して、業界のニーズ等をもとに育成人材像や特色ある教育にむけて検討を進める。

また、法人の将来構想のもと、本校の将来構想、教育の方向を描いていくようにする。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-2-1	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.8
1-2-2	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.6
1-2-3	学校における職業教育の特色は明確になっているか	3.8

基準2. 学校運営

中項目2-1

学校の教育理念等に沿った運営方針を定めているか

■自己評価:S

【総評】

年度開始時に学校の教育理念に沿った組織の年度運営方針を定め、教職員に周知している。令和5年度は、法人の学校運営に関する方針を全教職員に周知した。

【課題】

年度開始時に全教職員に周知しているが、定期的に全体周知を図る機会を設け、理解状況を確認していくことが課題である。

【今後の取り組み】

年度開始時だけでなく、年間を通して全教職員が運営方針を意識して行動できるよう、会議等を活用し周知し、理解が深まるよう、また、課題を見出せるようにしていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
2-1-2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	3.7

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか

■自己評価:S

【総評】

年度開始時に学校の年度運営方針を定め、その方針に沿った事業計画を策定し、全教職員に周知している。さらに、校務分掌をもとに計画に沿って執行している。事業計画の執行状況は、定期的に教務会議、運営会議等で確認している。

【課題】

年度開始時に事業計画は全教職員に周知しているが、その進捗状況等について会議等で確認、共有し円滑に執行していくことが課題である。

【今後の取り組み】

教務会議をはじめとする会議等を活用し、進捗状況を確認していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-2-1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.7
2-2-2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	4.0

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか

■自己評価:S

【総評】

法人としての組織運営、意思決定機関については、適切に機能している。学校運営に関しては、学校組織図、校務分掌は整備されており、それらに基づき運営を行っている。意思決定機関として会議規程が作成されており、運営会議、教務会議が定期的で開催されており問題なく機能している。諸規定についてもその改廃を行っている。

また、事務組織も設置され、事務職員が配置されており、その機能を果たしている。

【課題】

法人として寄附行為の見直しが行われており、今後は、改正後の寄附行為、および法人の運営方針に基づいて運営を行っていくことが課題である。

【今後の取り組み】

改正後の寄附行為に基づき運営を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	寄附行為、理事会会議規則等(法人)、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会、学校の運営会議等が開催されているか	4.0
2-3-2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.9
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的で開催されているか	4.0
2-3-4	教員の組織体制を整備しているか	3.7

2-3-5	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	3.7
-------	--------------------------------	-----

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか

■自己評価:S

【総評】

法人として就業規則、人事諸規定が整備されており、法人の運営方針や労働関連法規に基づき各規程の改正を行っている。

教職員の採用については、人員の不足が生じないよう適切に募集・採用を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取り組み】

国および法人の方針、多様な働き方に対応できるよう諸規定の整備を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか	3.8
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか	3.7
2-4-3	昇給・昇格制度は文書化されているか	3.5
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	3.8

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか

■自己評価:B

【総評】

情報のシステム化については、各教職員へのパソコンの貸与と共に定期的なメンテナンスを行い、サーバー内に必要な情報を一元化し業務の効率化を図れるようにしている。しかし、入試・学務・財務におけるデジタル化は遅れており、DX 推進に向けた研修を開始した。今後、法人としてシステムの導入を検討しており、教育 DX による学習効果や課題を検討しながら推進に向けた準備を行っていくことが必要である。

【課題】

法人のシステム導入に関する情報収集と他校の DX 推進に関する情報収集を行い、本校に適したシステムの構築について検討を行っていく。

【今後の取り組み】

学務・財務ともに情報のシステム化に向けた準備、および教職員の IT リテラシーの向上を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
-----	------	-----------

2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	2.7
-------	---------------------------	-----

基準3. 教育活動

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか

■自己評価:S

【総評】

教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)に沿ったデュプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し、カリキュラムを編成・実施している。カリキュラム・ポリシーはシラバスに記載しており、学生に説明、明示しているが、その他は公表に至っていない。令和4年度改正の教育課程に関しては、教育評価を行いつつ進めている。

【課題】

令和4年度改正教育課程を運営していくこと、人材育成像に近づく教育が実施できているかカリキュラムの検証していくことが今後の課題である。

【今後の取り組み】

カリキュラム・ポリシー、デュプロマ・ポリシーをホームページ、学校案内等で公表していく。

令和4年度改正教育課程およびその教育評価を行い、人材育成像に近づく教育が実施できているか検証していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	3.8
3-1-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0
3-1-3	教育目的および育成人材像に基づきデュプロマポリシーを明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	3.8

中項目3-2

各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか

■自己評価:A

【総評】

教育課程は、教育理念・到達目標に沿って体系的に編成され、カリキュラム・ポリシーにそって運営している。シラバスについても学生に配布し、ホームページに公表している。各授業および実習においては、学生からの教育評価、また試験やレポート等の結果からも評価を行っている。臨地実習においても体系的に位置づけられており、実習指導者会議を通して、実習目的・実習内容・実習方法・評価について事前に打ち合

わせを行い、実習中も指導者との連携をとっている。

令和4年度開始の改正教育課程は完成年度を迎える。新たな教育内容となる科目(臨地実習を含む)があり、事前の準備や実習内容や評価に関する実習指導者との打ち合わせを十分に行い、効果的な教育となるよう取り組む必要がある。

教育の質向上に向けた観察授業の実施は行えていない。また、外部関係者を含めたカリキュラムの編成には至っていない。

【課題】

改正カリキュラムの運用とその評価を行うことが課題である。また、外部関係者を含めたカリキュラムの編成を行っていくことが課題である。

成績低迷者に対する対策等のあり方について検討していく必要がある。

【今後の取り組み】

改正カリキュラムの効果的な運用ができるよう教員間での意見交換を行っていく。

令和6年度から外部関係者を含めた教育課程編成委員会を発足させ、カリキュラムの改善を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育理念・到達目標に沿って学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.9
3-2-2	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4.0
3-2-3	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	3.3
3-2-4	シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に示され(あるいはホームページなどで公開されて)、授業で有効活用されているか	3.9
3-2-5	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容およびその評価方法、評価項目、手段、スケジュールは適切か)	3.6
3-2-6	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	2.9
3-2-7	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)	3.6
3-2-8	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	3.2
3-2-9	カリキュラム作成のために複数のメンバーによりカリキュラムの作成が行われているか(カリキュラム作成委員会等)	3.4
3-2-10	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	2.7
3-2-11	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	3.1
3-2-12	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、演習・実習等を行っているか	3.7
3-1-13	企業・施設等での職場実習があるか	3.7

中項目3-3

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

■自己評価:S

【総評】

成績評価・単位認定については、履修規定に明記し、入学時に説明を行っている。成績評価の基準については、各科目のシラバスおよび実習要綱に記載し、学生に明示し、各科目の開始時または実習オリエンテーションにおいて説明を行っている。

科目の成績評価、単位認定、進級判定については年度末の運営会議、卒業判定は全科目履修後の運営会議にて規定に従い厳格に実施している。

関連分野の企業・団体等と連携した学修成果の評価については、指導者会議での打ち合わせ、実習中および実習終了後に評価に関する打ち合わせを行い、学生の評価を行っている。

【課題】

関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価については、令和5年度から開始した実習施設については、情報交換や連携の不足があった。実習中から情報交換を密に行い、学修成果の評価につなげていくことが課題である。

【今後の取り組み】

臨地実習について、実習施設および実習指導者との連携をもち、学修成果の評価がより適切になるように取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0
3-3-2	学生や保証人(保護者等等)に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	3.9
3-3-3	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4.0
3-3-4	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか	3.4

中項目3-4

資格・免許取得のための指導体制があるか

■自己評価:S

【総評】

本校は、看護師を養成する課程であり、看護師国家試験合格に向け、1年次から年間計画を立案し、指導体制を整えている。カリキュラムの中に、模擬試験や国家試験対策のための特別講義を組み込んでいる。

【課題】

国家試験および模擬試験結果等の分析に基づく、授業内容の見直し、充実が課題である。

【今後の取り組み】

国家試験合格に向けた教育内容、学生指導等、一層の指導体制の強化を図る。

小項目	評価項目	自己点検・
-----	------	-------

		評価結果
3-4-1	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8

中項目3-5

基礎的・汎用的能力(① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力)を身につけるための取組が実施されているか

■自己評価:S

【総評】

キャリア教育に関して、入学時から社会人基礎力を段階的に育成できるよう各学生が自己評価を繰り返しながら各自の課題に応じて取り組むよう指導している。職業的自立については外部講師による自己理解を助ける講義を組み入れ、さらに自己のキャリア形成が行えるよう個別的な指導を含めて支援している。

高校との連携によるキャリア教育については、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類となったこともあり、高校からの要請に応じて可能な限り参加している。今後は看護の魅力を伝えるとともにキャリア形成に向けどのような内容が必要か高校等と連携を図り検討していく。

【課題】

キャリア教育の体系的な取り組みが課題である。

【今後の取り組み】

3年間の体系的なキャリア教育のあり方を模索、検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	3.8
3-5-2	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3.5

中項目3-6

教員の能力評価・能力向上に向けた取組を行っているか

■自己評価:A

【総評】

指定規則および看護師等養成所の運営に関するガイドラインに則り、各分野・専門領域の専任教員、非常勤講師を配して教育活動を行っている。専任教員の要件を満たしていない教員4名については、令和5年度は2名の教員が専任教員養成講習会受講ならび大学卒業等により専任教員の要件を満たすことができた。令和6・7年度にも専任教員養成講習会受講を計画している。

教員の能力開発については、新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、研修会等に積極的に参加するようになっている。研修内容については報告及び書面を通して共有できるようにしている。

非常勤講師とは来校時等に情報交換を行い、教育内容の見直しや教育方法について打ち合わせを行っている。

【課題】

教員の指導力向上のための研修には参加できているが、専門分野の先端的な知識・技能等を修得するための研修への取り組みが少ないため、各担当領域に関連する研修への積極的参加が課題である。

【今後の取り組み】

教職員研修計画の作成を行い、教員の能力開発を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-6-1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	3.7
3-6-2	教員数が充足していない場合、採用活動を行っているか、または、教員資格等取得に向けた教育・指導を行っているか	3.9
3-6-3	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.5
3-6-4	教員の能力開発のための研修等が行われているか	3.4
3-6-5	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか	3.2
3-6-6	教育の成果(学修結果)に基づく教員面接を実施しているか	3.4
3-6-7	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて組織的・計画的に受講させているか	3.4
3-6-8	教員に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力開発の計画を作成しているか(教職員研修計画の作成)	3.1
3-6-9	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	3.2

基準4. 学修成果・教育成果**中項目4-1**

教育目標、育人人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか

■自己評価:S

【総評】

学生の習熟状況については、各学年の終了時に成績等をもとに学習者の状況を分析し、成績低迷者については保護者等とともに面談を行い学習支援につなげている。学修成果については評価項目と基準に基づき評価を行っている。

【課題】

学生の習熟状況に応じた支援が行えているかを検証しつつ、より効果的な指導につなげるようにする。

【今後の取り組み】

学修成果の評価項目および評価基準の妥当性について検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	3.9
4-1-2	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	3.9

中項目4-2

就職率の向上が図られているか

■自己評価:S

【総評】

令和5年度は、進学者はなく、看護師としての就職率は100%であった。そのうちの約6割は関連病院に就職している。就職活動に関する記録は適切に行われており、学校案内やホームページに就職実績を公表している。

【課題】

学生の卒業後のキャリア形成に向けた取り組みについてキャリア教育とともに体系化していくことが課題である。

【今後の取り組み】

卒業後を含めたキャリア教育について検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	就職率の向上が図られているか	3.9
4-2-2	学生の就職に関する目標に対して教職員に共有されているか	3.7
4-2-3	学生の就職活動に関する記録がなされているか	3.8
4-2-4	対外部に向けた就職実績を公表しているか	3.9

中項目4-3

資格・免許取得率の向上が図られているか

■自己評価:S

【総評】

看護師国家試験の合格率は令和5年度も100%であり、全国の合格率と比較しても高い合格率である。結果は学校案内やホームページに公表している。

【課題】

国家試験合格に向けた学生の学習支援について検証し、より効果的な支援を行うことが課題である。

【今後の取り組み】

成績の低迷している学生に主体的な学習が行えるよう支援する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-3-1	目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか	3.9
4-3-2	資格の結果(合格者数・合格率)を公表しているか	4.0

中項目4-4

卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

■自己評価:S

【総評】

令和5年度は前年度の卒業生の就職先にアンケート調査を行い、卒業生の社会人基礎力、看護実践能力、本校への要望等の調査を行った。また、前年度卒業生に対してホームカミングデイを設け、新人看護師としての悩み等を聞く機会を設けた。

【課題】

卒業生の就職先のアンケート結果をもとに教育活動の改善を図る。

【今後の取り組み】

アンケート結果をもとにした教育活動の改善について具体的な検討を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-4-1	卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか	3.7

基準5. 学生支援

中項目5-1

学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるようになっているか

■自己評価:S

【総評】

学生の修学のための経済的支援のための体制、健康管理体制、進路支援体制、相談体制を整え、学修に専念できる環境を整えている。令和6年度からは、障害のある学生への合理的配慮に関する支援体制も整備した。

【課題】

修学支援の学生への周知が課題である。

【今後の取り組み】

修学支援に関して学生便覧、ホームページに掲載し、学生の周知が図れるようにする。また、各部署間の

連携をもち、適切な支援が行えるようにする。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか	3.9

中項目5-2

就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか

■自己評価:S

【総評】

就職・進学指導については2年生後期から開始した。支援態勢は整えており、個別の指導も行っている。

【課題】

入学時より各学年、各学生に応じた指導を計画的に実施していく。また、主な就職先となっている関連病院との連携を強化していくことが課題である。

【今後の取り組み】

キャリア教育とあわせ、各学年に応じた進路支援を計画的に行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-2-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0

中項目5-3

学生相談に関する体制は整備されているか

■自己評価:S

【総評】

クラス担任制および小集団担当教員を配置し、学生の面接を行うとともに相談体制を整えている。面談記録も具備している。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングも利用できる体制をとっている。ハラスメントや障害のある学生への合理的配慮等学生支援についてはその対応について整備した。

【課題】

ハラスメントや障害のある学生への合理的配慮等学生支援に関する窓口について周知することが課題である。

【今後の取り組み】

様々な支援体制について学生に周知する機会をもつ。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-3-1	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)	4.0

中項目5-4

学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか。

■自己評価:S

【総評】

本校は、修学支援新制度対象校・専門実践教育訓練指定講座となっており、学生の経済的側面に関する支援体制は整備されている。健康診断をはじめ健康管理については校医との相談体制を整備している。医療者に必要とされるワクチン接種についても校医に相談の上、ガイドラインに沿った対応を行っている。スクールカウンセリングの体制も整っている。クラブ活動については6つのクラブがあり、学生の希望に沿った活動ができるよう支援している。

一人暮らしの住環境への支援については、不動産会社の紹介は行っているが、支援までには至っていない。

【課題】

新型コロナウイルス感染症によりクラブ活動ができなかったこともあり、活発な活動には至っていない。学生の希望に沿った活動を支援することが課題である。

【今後の取り組み】

クラブ活動の活性化につながる取り組みを実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-4-1	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4.0
5-4-2	学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか	4.0
5-4-3	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.0
5-4-4	学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか	3.0

中項目5-5

退学率の低減が図られているか

■自己評価:S

【総評】

令和5年度は150名の在校生のうち退学者は2名、退学率は1.3%であった。退学理由もやむを得ない理由であったと考えている。令和4年度の退学者は5名(3.3%)であり、退学率は低減した。本校では、退学率に関する目標は設定していないが、看護を志す学生が断念することのないよう支援を行いたいと考えている。

【課題】

学生の個別の支援を行い、今後も看護を志す学生の退学を防止することが課題である。

【今後の取り組み】

学生の個別の支援を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-5-1	退学率の低減が図られているか	3.8
5-5-2	退学率の目標を設定しているか	3.4
5-5-3	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	3.4
5-5-4	退学者数を公表しているか	3.6

中項目5-6

保証人との連携体制を構築しているか

■自己評価:S

【総評】

学生後援会役員会を1年に1回開催し、意見交換の場を設けている。また、成績低迷者や希望があった学生や保護者等については年に2回の保護者等を含めた面談を実施している。その他、学生の状況に応じ保護者等への連絡を行い学修の支援を行っている。

【課題】

学生の状況に応じ保護者等との連携をもつ。

【今後の取り組み】

保護者等との面談を継続していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-6-1	保証人(保護者等等)と適切に連携しているか	3.9
5-6-2	保証人(保護者等等)との計画的な相談会・面談を行っているか	3.8

中項目5-7

卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか

■自己評価:A

【総評】

卒業生の卒後教育については取り組めていない。

社会人学生が増加しており、面談を通してニーズの把握に努めている。現在は、社会人であることを理由とした教育環境の必要性はない。

【課題】

卒業生の卒後教育への支援体制の検討が必要である。また、社会人学生のニーズの把握が必要である。

【今後の取り組み】

卒業生の卒業教育のニーズ、社会人の学生のニーズの把握とそれに対する支援や学習環境の整備が課題である。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-7-1	卒業生の動向を把握しているか	3.6
5-7-2	卒業生への支援体制を整備しているか(再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか)	3.5
5-7-3	卒業生への卒業教育等の支援体制はあるか(卒業生への講習・研修を行っているか)	2.8
5-7-4	社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.6

基準6. 教育環境

中項目6-1

施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

■自己評価:S

【総評】

看護師等養成所の運営に関するガイドラインに則り設備、教材、備品、図書等を整備しており、さらに、ハイブリッドシミュレータなども整備し、学生がより臨床の場に近い学習ができるよう環境を整備している。教材の保守点検については年3回の点検による維持管理を行い、教育活動に支障が出ないようにしている。図書については、令和4年度から分類を見直し、令和5年度に新分類とし、書架の整備も行い、学生が活用しやすいようにした。

【課題】

教室はネットワーク環境を整えているが、全館のネットワーク環境の構築の検討が課題である。

【今後の取り組み】

学習環境を整えるために必要な設備の検討、経年劣化した設備や教材の更新を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.7
6-1-2	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	3.8
6-1-3	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	3.7
6-1-4	分煙・禁煙等に関する規定が文書化・掲示されているか	4.0
6-1-5	学内の整理・整頓・清掃に関して定期的に管理・チェックがされているか	3.9
6-1-6	施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか	3.8

中項目6-2

校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか

■自己評価:S

【総評】

実習施設の教育体制は整っている。令和5年度に開始となった2病院については、4年前から実習の受け入れ準備を進めていただいております十分な教育体制であった。

実習での情報取り扱いやマナー、新型コロナウイルス感染症対策については規程等を作成し、実習要綱をもとにオリエンテーションを行い、適切な対応をとるよう指導している。

【課題】

実習施設との連携の強化が課題である。

【今後の取り組み】

令和5年度から実習開始した2病院については、情報交換や意見交換を行い、教育体制の充実を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
6-2-2	実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備されているか。	3.9

中項目6-3

防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか

■自己評価:S

【総評】

防災に関する組織体制や安全管理マニュアルを整備し、災害時の対策に関する計画立案に基づき、防災訓練を年に1回実施している。

【課題】

災害発生時のマニュアルの整備と学生教職員への周知徹底を行うことが課題である。また、災害訓練は火災訓練のみの実施であるため、今後は地震等の災害を想定した訓練が必要である。

【今後の取り組み】

災害発生時のマニュアルの整備と学生教職員への周知徹底を行う。また、地震等の災害を想定した訓練を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-3-1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.5
6-3-2	防災・防犯設備が整備・点検されているか	3.7
6-3-3	定期的に防災訓練を実施しているか	3.8
6-3-4	学校における安全管理の整備を行っているか	3.5

基準7. 学生の受入れ募集

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか

■自己評価:S

【総評】

学生募集活動は、学校説明会を開催し本校の教育の場を通して教育活動に理解を得るようにしている。高等学校や九州・山口の各地で開催される説明会に参加し、看護師の職務や本校の教育の特徴、教育内容、教育の成果を紹介している。また、福岡・大分・山口県の高等学校の訪問を行い、本校の特徴を紹介している。

アドミッション・ポリシーは学校案内、募集要項、ホームページに記載し、公表している。

入学に関する問い合わせは、電話やメールにて受け付けており、適切に対応している。

入学予定者については、指定校推薦型選抜の入学予定者には入学前の学習支援を行っているが、その他の方法による入学予定者については行っていない。

【課題】

本校の教育についてよりわかりやすく紹介することが課題である。

入学予定者に対する学習支援のあり方を検証し、より効果的な支援について検討することが課題である。

【今後の取り組み】

コロナ禍で縮小されていた学校見学会をオープンキャンパスに変更し、看護の理解が深まるよう情報提供を行う。また、学校案内パンフレットの見直しを行う。

入学予定者に対する学習支援の効果を検証していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
7-1-2	アドミッション・ポリシーを策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか	3.9
7-1-3	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	3.9
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか	4.0
7-1-5	入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制ができているか	4.0
7-1-6	学校説明会等による情報提供(育成人材像、評価手段及びその基準、目指す資格・学費・教材費等の情報)を行っているか	4.0
7-1-7	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか	3.7

中項目7-2

入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

■自己評価:S

【総評】

選抜方法は、募集要項、学校案内、ホームページに記載している。入学者の選考については、令和5年度にアドミッション・ポリシーに基づいた評価基準となるよう見直し、公正な選抜を行っている。

【課題】

選抜方法や評価基準の検証を行っていくことが課題である。

【今後の取り組み】

選抜方法や評価基準の検証を行い、より適正な入学者選抜となるよう取り組む。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-2-1	学校案内等には選抜方法が明示されているか	3.9
7-2-2	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4.0

中項目7-3

学納金は妥当なものとなっているか

■自己評価:S

【総評】

学納金は妥当であり、学校案内や募集要項に学費等を明示している。

【課題】

なし

【今後の取り組み】

これまでの取り組みを継続する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-3-1	学納金は妥当なものとなっているか	4.0
7-3-2	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4.0

基準8. 教育の内部質保証システム

中項目8-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか

■自己評価:S

【総評】

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、看護師等養成所の運営に関するガイドライン、専修学校設置基準等の法令を遵守し、学校の運営を行っている。諸規程についても適切に整備されている。令和5年度は、福岡県保健医療介護部医療指導課による看護師等養成所に係る指導調査が実施され、改善が必要な事項はなかった。

【課題】

今後も、法令等に基づき適切な運営を行う。

【今後の取り組み】

全教職員がコンプライアンスに関する認識を持ち、課題の抽出や改善に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9
8-1-2	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.9
8-1-3	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	3.7

中項目8-2

個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか

■自己評価:S

【総評】

個人情報保護については、個人情報保護規程、個人情報保護方針、個人情報等に関する取扱い規程、臨地実習等における個人情報の取扱いに関する規程を作成し教職員に周知している。

【課題】

個人情報保護について規程等に基づき、適切に運用されているか、検証することが課題である。

【今後の取り組み】

個人情報保護に関する教職員の意識づけの強化と規程に基づいた運用が行われているか検証していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-2-1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3.9
8-2-2	個人情報保護規程が文書化されているか	3.9
8-2-3	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し、意識づけができていないか	3.9

中項目8-3

自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか

■自己評価:S

【総評】

学校教育、学校運営について自己点検・評価を実施している。

学校関係者評価については、学校関係者委員会を開催し、自己点検・評価結果をもとに教育活動および学校運営に関する検証を行っている。指摘事項であった卒業生への就職先企業へのアンケート調査、地域貢献活動について改善に取り組んでいる。

【課題】

自己点検・評価および関係者評価結果を全教職員で共有し、改善活動を活性化させていくことが課題である。

【今後の取り組み】

評価結果をもとにした全教職員による改善活動への取り組みを行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-3-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか	3.9
8-3-2	自己点検・評価報告書にまとめているか	3.8
8-3-3	自己点検・評価の組織があるか	3.8
8-3-4	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	3.9

中項目8-4

教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか

■自己評価:A

【総評】

これまで自己点検・自己評価委員会にて行っていた点検及び評価を、令和5年度から教育の質の向上に向け全教職員による自己点検・評価を行い、その結果をもとに自己点検・自己評価委員会にて協議を行い、全教職員で課題と改善計画を共有する体制に変更した。この自己点検・評価活動を通して全教職員の学校教育・学校運営の課題等の認識につながっている。

令和5年度の改善計画については、一部実施できたこともあるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり学校祭の開催による地域との交流など実現できなかったこともあった。

【課題】

自己点検・評価活動の実施体制の変更による教職員の意識の向上と改善への積極的取り組みが課題である。

【今後の取り組み】

改善すべき課題および改善計画について教職員で共有し、実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-4-1	自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか	3.9
8-4-2	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.7
8-4-3	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	3.4
8-4-5	自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	3.4
8-4-5	学校関係者評価の結果に基づき改善計画を策定したか	3.4
8-4-6	学校関係者評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	3.4

中項目8-5

教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか

■自己評価:S

【総評】

教育活動については、適宜ホームページを更新し、自己点検・評価結果、関係者評価結果をホームページにて公表している。

【課題】

なし

【今後の取り組み】

なし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-5-1	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.7
8-5-2	自己評価結果を公開しているか	3.9
8-5-3	学校関係者評価結果を公開しているか	3.8

基準9. 財務

中項目9-1

学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか

■自己評価:S

【総評】

ホームページに公開している財務諸表のとおり、学校の財政基盤は安定している。事業年度開始にあたって、教育機器・教材の購入を年間予算に計上し、計画的・優先的に購入し、教育活動が遂行できるようにしている。

【課題】

今後も学生の確保を図り、継続して中期的な財政基盤の安定に努めていくことが課題である。

【今後の取り組み】

広報活動等による学生の確保に継続して取り組む。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	3.9
9-1-2	年度予算・中期計画が策定されているか	3.8

中項目9-2

予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか

■自己評価:S

【総評】

予算の編成および執行は適正に実施している。

【課題】

なし

【今後の取り組み】

予算決算管理と前年度対比分析を行い、改善策を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-2-1	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.9
9-2-2	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4.0

中項目9-3

財務について会計監査が適正におこなわれているか

■自己評価:S

【総評】

監査の実施については、私立学校法及び寄附行為に基づき、監事による会計監査が適切に行われている。

【課題】

なし

【今後の取り組み】

今後も私立学校法及び寄附行為に基づき、監事による会計監査を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-3-1	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4.0

中項目9-4

私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

■自己評価:S

【総評】

財務情報は、公開体制を整備し、ホームページにて貸借対照表・収支決算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題】

なし

【今後の取り組み】

今後も財務情報について公開を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-4-1	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4.0
9-4-2	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取り組んでいるか	4.0

基準10. 社会貢献・地域貢献

中項目10-1

学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか

■自己評価:A

【総評】

社会貢献・地域貢献活動として、高等学校等で行われる職業教育に関する講師の派遣を行っている。また、本校の設備等に対し、申し入れがあり可能なものについては貸し出し等を行っている。教育資源の活用として地域からの講座等の依頼には積極的に対応したいと思っているが、令和5年度には活動の機会がなかった。令和6年能登半島地震被災養成所の看護学生の受入れの登録を行ったが、転入学の希望はなかった。

【課題】

地域からの要請や看護教員教育、高等学校等への講師の依頼等については積極的に活動を行う。また、本校が取り組める社会貢献・地域貢献のあり方について検討する。

【今後の取り組み】

本校が社会的に期待される役割、地域貢献のあり方を模索、検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.4
10-1-2	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.4

中項目10-2

学生のボランティア活動を奨励・支援しているか

■自己評価:S

【総評】

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類となり、市民の活動がコロナ禍前に戻りつつあり、本校の学生もまちづくり協議会主催のイベント等のボランティア活動を支援し、活動することができた。しかし、看護学生として高齢者や障害者等に対するボランティアは未だ要請がなく、活動の場は限られた状況であった。

【課題】

看護学生として高齢者や障害者に対するボランティア活動についても支援する。

【今後の取り組み】

新型コロナウイルス感染症等の感染状況を判断し、高齢者や障害者に対するボランティア活動についても支援を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-2-1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.8